



カケハシ・プロジェクト（米国） ジャパンボウル招へいの記録

1. プログラム概要

【目的・概要】米国各地から、ジャパンボウル大会^{（注）}の成績優秀者 9 名と引率者 1 名が来日し、大阪府・兵庫県・東京都を訪問しました。ホームステイや学校交流、視察、政府関係者等との交流を通じて、日本文化や社会、歴史について理解や知識を深めるとともに、親日度の一層の深化と参加者同士のネットワーク強化を図ることを主目的として実施しました。

（注）米国・ワシントン D.C. で 1992 年に発祥した、日本語を外国語として履修する高校生が、日本語と日本文化の知識を競うクイズ大会。

【参加者】ジャパンボウル入賞者 米国の高校生、大学生 9 名及び引率者 1 名 合計 10 名

【訪問地】大阪府、兵庫県、東京都

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

7 月 18 日（金曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

7 月 24 日（木曜日） 関西国際空港及び羽田空港より入国
羽田空港より入国した参加者は大阪国際空港（伊丹空港）へ移動
【来日時オリエンテーション】
7 月 25 日（金曜日） 【学校交流】兵庫県立 芦屋高等学校
【視察】2025 年大阪・関西万博
7 月 26 日（土曜日） 【視察】大阪城
【視察】大阪市内（道頓堀周辺）
【ホストファミリー対面式】
【ホームステイ】西宮市
7 月 27 日（日曜日） 【ホームステイ】
【ホストファミリー歓送会】
兵庫県から東京都へ移動
7 月 28 日（月曜日） 【表敬訪問】在日米国大使館
【表敬訪問】高円宮親王妃久子殿下
【表敬訪問】一般社団法人 日米協会

- 7月29日（火曜日） 【交流】ジャパンボウルサポーターズグループ（富田染工芸体験、早稲田大学
キャンパスツアー）
 【表敬訪問】石破 佳子 内閣総理大臣夫人
 【表敬訪問】英利 アルフィヤ 外務大臣政務官
- 7月30日（水曜日） 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（ア
クション・プラン）の作成）
 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
 羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
7月25日【学校交流】兵庫県立 芦屋高等学校	7月25日【視察】2025年大阪・関西万博
	
7月26日【視察】大阪市内（道頓堀周辺）	7月27日【ホームステイ】
	
7月28日【表敬訪問】在日米国大使館	7月28日【表敬訪問】高円宮親王妃久子殿下 （注）写真は本報告書掲載のみ。SNS 公開は不可。

	
7月28日【表敬訪問】一般社団法人 日米協会	7月29日【交流】ジャパンボウルサポーターズグループ（富田染工芸体験）
	
7月29日【表敬訪問】 石破 佳子 内閣総理大臣夫人	7月29日【表敬訪問】 英利 アルフィヤ外務大臣政務官
	
7月30日【報告会】	7月30日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

日本人がとても流暢な英語を話していて、本当に驚きました。また私たちが出会った多くの人々がとても親切で温かく迎えてくれました！！例えば、交流した高校生とは日本語と英語の両方で話すことができ、語学力関係なくお互いに学ぶことができました。心から感謝しています。

◆ **高校生**

大阪と東京でのこの一週間の滞在中、本当に多くの面で感銘を受けました。プログラムのスケジュール中、またそれ以外で出会った人々や、ホームステイ先の家族など、交流した全ての人々がとても親切にしてくださり、私たち参加者が日本文化や社会についてよりよく理解できるように、積極的にコミュニケーションを取ってくださいました。

◆ **高校生**

日本の著名な方々とお会いできたことは非常に印象的で、そうした方々と直接お話しする機会をいただけて、とてもうれしかったです。学校交流では、私たちのたどたどしい日本語にもかかわらず、生徒さんたちが積極的に心を開いて交流してくれたのでとても驚きましたし感激しました。

4. **受入れ側の感想（抜粋）**

◆ **交流校生徒**

一緒に料理体験をしたり、書道体験などをして交流ができ、とても楽しかったです。本当に貴重な体験をすることができました。また機会があればこのような国際交流したいと思いました。

◆ **交流校教員**

吹奏楽部の国歌演奏を喜んでくださり、歓迎の意を表現できたと思います。調理実習や書道を本校の学生と一緒にできたことで、日本文化を共に体験するという機会を持っていただきました。

カケハシ・プロジェクトの学生が日本のことを詳しく知ってくださっていたので、さらに交流が深まり、相手の文化にも興味を持つことができました。

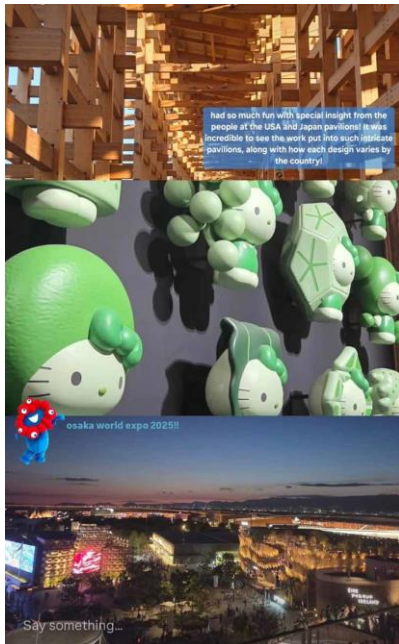
◆ **ホストファミリー**

滞在いただいたお二人とも、全て日本語を使って話そうとしてくれて感心しました。日本語に対して、すごく向上心がある方々だと思いました。日本について勉強されているからか、態度もとても奥ゆかしくて、日本人みたいだ……と思いました。（中略）日本語の勉強をはじめて、わずか3年～5年でこんなに風になれることに感動し、自分の子どもにも好きなことを見つけて楽しみながら頑張りたいと思いました。そして私自身もまた語学学習をしたいと思いました。

◆ **ホストファミリー**

子どもにも優しく接していただき、英語の絵本の読み聞かせをしてくれていたのが本当のお姉さんのようでした。子ども達もとても喜んでいて、「先生」ではないネイティブスピーカーと接することは良い経験になったと思います。また、私個人としては日本語能力の高さと知識に驚かされました。京都のお寺に飾られていた仏具の日本語で書かれた説明書きも「仏様にお供えするものなのですね」と普通に読んでいたので本当に驚きました。今までどれほど勉強されてきたのか。私ももっと頑張ろうという気になりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等



2025 年 7 月 25 日（Instagram）

2025 年大阪・関西万博

米国と日本のパビリオンのスタッフが特別に説明して下さり、とても楽しい時間を過ごしました！パビリオンの複雑な構造に驚き、また各国のデザインが違っていることも興味深く感じました！

2025 年 7 月 26 日（Instagram）

2 日目：大阪城・道頓堀、ホストファミリーとの対面

博物館で昨年学んだ歴史を見学することができ、今年学んだ道頓堀にも行くことができて、とても感慨深い体験でした。

また兵庫県でホストファミリーと対面し、夜には一緒に『鬼滅の刃』を見ました。



2025 年 7 月 27 日 (Instagram)

このホームステイは 2 日にも満たない期間でしたが、カケハシ・プロジェクト全体を通じて一番記憶に残る経験のひとつになると思います。公共交通機関を利用したり、地元の祭りやおいしい食べ物を体験することができました。ホストファミリーのおかげで兵庫から京都まで移動する機会に恵まれ、大阪と京都での経験とは別に、日本の伝統的な建築物をより多く見て学ぶことができたことに感謝しています。本当に感謝しています！

2025 年 7 月 30 日 (Instagram)

カケハシの滞在の最終日！とても寂しく感じる一方で、心も躍っています。
滞在中に出会った東京、大阪、兵庫、カリフォルニアの友人たち（そしてホストファミリー！）に、さようならを言うのはとても悲しいです。
一方でプログラムの次のステップとして、米国の友人たちとこの一週間の経験を共有するのを楽しみにしています！
日本と米国の間で橋渡し役（カケハシ！）として、仲間同士の絆をより強くすることができて、とても光栄です。



2025 年 7 月 25 日 (兵庫県立 芦屋高等学校 同窓会 あしかび会の HP)

「芦高生が「カケハシ・プロジェクト」で国際交流」

2025 年 7 月 28 日 (一般社団法人 日米協会の HP) 「ジャパンボウル入賞者歓迎会」

日米協会は 7 月 28 日、JAPAN BOWL (ジャパンボウル) 入賞者を歓迎するレセプションを開催しました。



2025 年 7 月 29 日 (兵庫県立 芦屋高等学校 書道部 Instagram)

「2025 年度カケハシ・プロジェクト ジャパンボウル招へいが開催され米国から 9 名の方々が芦屋高校に来校されました。」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：大阪府、兵庫県、東京都 全3グループ発表

グループ A



【成果の発表】

◆ 訪問中の学び：

芦屋高等学校との交流では、日本人はイベント等があるときには入念に準備することがわかりました。また特に都会では車道と歩道があまり分かれていないことを発見し、万博の日本館では日本人が限られた資源を有効に使うことがわかりました。

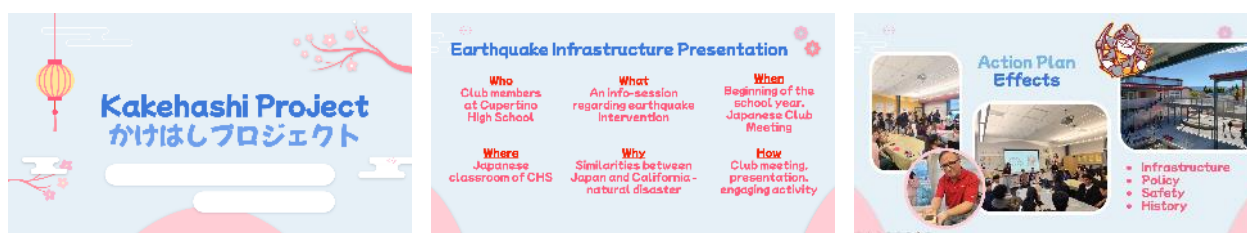
◆ 個人的展望：

今回、日本の文化や生活を直接経験することができ、視野が広がったので、今後は日本や他の国へ留学したり、海外でインターンシップをしてみたいと思います。興味関心のある分野で日本の団体でのインターンシップにも挑戦してみたいと考えています。

【アクション・プラン】

新学期が始まったら、日本に関するイベントや日本に関係する学生の組織で、今回の訪日の経験を、特に「食」という主題やボランティア活動を通じて伝えたいと思います。日本文化を経験したことがない人に私たちの経験を共有して、日本について知ってほしいと思います。

グループ B



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び：

ホストファミリーが神社に連れて行ってくれ、参拝の仕方を教わりました。また街にある漢字の表示を読んで理解することができ、自分たちが勉強してきたことが活かしていることがわかりました。早稲田大学のツアーでは、日本の芸術の多様性を学びました。

◆ 個人的展望：

今回の経験を今後の大学での学びに取り入れることができると思います。今後も日本語や日本文化の勉強を続けていきたいです。また関心のある公衆衛生の分野で、今回の異文化体験が役に立ち、異文化の人に対応する一助となると思います。

【アクション・プラン】

カリフォルニアは地震が多く、日本は地震に対する対策が進んでいるため、9月に日本語の教室で行われるクラブの会合で日本の地震対策について発表やアクティビティを行いたいです。その発表を見る人は日本文化を知ることができるとともに、普段学校で学ばないようなことも学ぶことができると思います。

グループ C



【成果の発表】

◆ 訪日中の学び：

芦屋高等学校での交流では、人と人の相互理解の大切さを学びました。ホームステイでは、日本人が米国に興味を持っていることがわかり、表敬訪問を通じて、私たちが多くの人に支えられていることを実感しました。日本は清潔で公共交通機関が効率的でした。

◆ 個人的展望：

さらに勉強をして、日本へ留学し、もっと日本語を吸収したいと思います。また本プログラムで出会った日本人との交流を発展させるとともに、日本に関係する勉強やキャリアを追求していきたいと思います。

【アクション・プラン】

9月中旬に学校で、日本語クラブのメンバーを対象に、画像を用いたスライドを使用して、カケハシ・プロジェクトやジャパンプールについて説明したいと思います。この発表を通じて、私たちが経験したプログラムについて、より多くの人たちに理解してもらえと考えています。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）